北海道函館五稜郭支援学校

校長　田　近　憲　二

生徒数　　12 名

学級数　　2 学級

職員数　　17 名

―　一人一人を大切に日々の教育実践を大切にした学校経営　―

平成 23 年（2011 年）に知的障がいのある生徒を対象とした高等部（環境・流通サポート科）を開設して以来、校訓である「共感・感謝」に基づき、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす教育の実践に取り組んでいる。

特に、キャリア教育の実践では、専門教科「流通・サービス」を通じてビルクリーニングに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、卒業後の就労につなげていく、一貫した指導により大きな成果を上げている。

― 地域とのつながりを大切にし、身に付けた力を伸ばす教育活動 ―

生徒が卒業後の就労で求められる常識や勤労に必要なスキルを身に付けるため、地域を学びの場として捉え、社会への貢献も視野に入れた教育活動の推進に努めている。

特に、市立函館博物館等の公共施設における清掃実習や老人保健施設における喫茶サービス実習の取組を通じて作業能力の向上はもとより、施設管理者や利用者とのコミュニケーション力の育成にも大きな成果を上げている。

― 日頃の学習成果を振り返り、自己有用感を育成する活動 ―

本校の目指す生徒像として、「自己を適切に理解し、必要な支援を伝えることができる生徒」を設定し、個別の指導計画等に基づく適切な指導・支援に努めている。

特に、「全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）」には、多くの生徒が出場し、平成29年度（パソコンデータ入力部門）及び平成30年度（ビルクリーニング部門）には、金賞を獲得するなど、出場した生徒の自己有用感の育成に大きな成果を上げている。

― 北海道五稜郭養護学校から42年、北海道函館五稜郭支援学校として10年 ―

「開校から42年、高等部開設から10年、多くの子どもたちの思い出が刻まれた函館五稜郭支援学校が閉校してしまうのは、時代の流れでやむを得ないことではありますが、誠に残念であります。

特に高等部開設からの10年間で培われた社会で活躍できる人材の育成を目指した教育は、機能移転先となる北海道函館高等支援学校にも継承されていくことを切に願います。」（保護者の声）